



棚倉秋祭り
浦安の舞

主な内容

- 2 市町村対抗野球
準優勝
- 3 秋の棚倉に
小京都を見る
- 8 県議選・町議選告知
- 9 市町村対抗駅伝
委員紹介
- 10 平成27年度
上半期財政公表
- 12 保健福祉センター
だより
- 14 子どもセンターだより
- 15 倉美館情報
- 16 成人式案内
インフォメーション
- 18 まちの話題
- 20 みんなの広場

裏 秋と子

秋の棚倉に 小京都を見る



秋空と黄金色の稲がまぶしく、賑やかに秋祭りが行われた10月、皆さんは次の新聞記事をご覧になったでしょうか。

「棚倉町、全国京都会議に加入
東北の小京都としてPR」

全国京都会議は、懐かしい日本の原風景を守り、それぞれの土地の伝統文化を伝える、全国の小京都が加入しています。棚倉町は今回、県内初、全国で47番目に全国京都会議に加入しました。

加入条件は、①京都と似た自然景観や町並み、②京都との歴史的つながり、③伝統産業や芸能があること。

今月号では、棚倉の京都らしさを、十月に行われた「秋祭り」「奥州棚倉藩評定」の様子とともに探ります。



街並みに映える秋の伝統

10月の10日、11日に行われたのは棚倉と近津の秋祭り。棚倉秋祭りは、江戸時代に始まったとされ、約200年の伝統があります。先人が歩いたであろう街並みには、今も寺社仏閣や蔵が残ります。屋台や山車が映える街並みは、歴史の重みと風情が感じられます。



秋の棚倉に

小京都を見る

山並みと歴史ある街並み

春は桜の名所として親しまれている赤館山は、棚倉地区から近津地区へと続く街並み、田園風景を眺めることができるといえるスポットです。なだらかな山並みが東西に続き、久慈川が南へ南へと流れゆき、街並みの中には、棚倉城跡、寺社仏閣、秋色に染まった町内を眺めることができます。

山々に囲まれた盆地の中に、鴨川が流れ、たかさんの寺社仏閣と歴史、伝統が息づく京都の街並み。大きさこそ違えど、赤館山からの棚倉の眺めは、どこか京都と似ている、小京都と呼ばれる眺めです。



街並みに映える紅葉

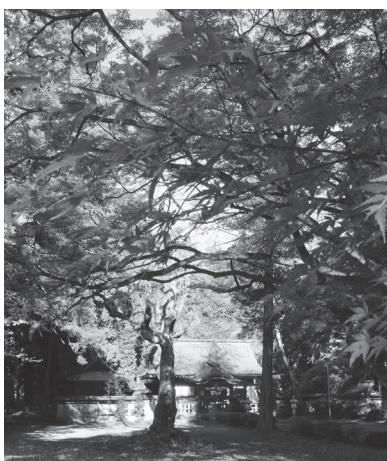
この時期、日本らしさを感じさせるのは、町内の紅葉です。

寺社仏閣や棚倉城跡の紅葉は、風情があり、多くの写真家が訪れます。

馬場と八槻

の都々古別神社の紅葉は、一ノ宮らしく厳かに、長久寺の紅葉は山門にかかる紅葉が美しく、山本不動尊の参道は紅葉の中をどこまでも歩いていく感覚を味わえます。城跡は、水面に映る紅葉、大げやきの紅葉もまた見事です。

歴史と街並みに映える紅葉はまちの自慢です。





赤館のふもとに残る

京都とのつながり



赤館山のふもとには、現在も「玉室宗珀謫居之跡」と刻まれた大きな碑が残っています。

この碑は、玉室宗珀という僧がかつてこの地に庵を構え住んでいたことを今に伝えるものです。玉室宗珀は、安土桃山時代から江戸時代にかけての人物です。京都の大徳寺の住職を務め、その境内に芳春院を開いた人でもあります。

玉室宗珀が棚倉町へとやって来たのは、江戸時代、1629年のこと。当時、高僧には、その証として朝廷から「紫衣」と呼ばれる紫色の法服が贈られていましたが、幕府の許可なしに行われたとして、幕府が無効を宣言。抗議した玉室宗珀は、棚倉へと流されました(紫衣事件)。当時の棚倉藩は、第2代棚倉城主の内藤信照の時代でした。玉室宗珀は、京都へと戻る1632年まで、この地に信照が建立した光徳寺境内の庵で暮らし、親睦を深めました。

玉室宗珀が眺めていた赤館山からの景色、山並みに囲まれた棚倉の景色は、遠く離れた京都の地を思わせるものだったのでしようか。

京都の大徳寺は、武将との交流が多く、棚倉藩初代藩主、立花宗茂の墓所があり、初代棚倉城主の丹羽長重との交流があったとも言われています。棚倉の地との意外なつながりが、京都の大徳寺にはあります。

城下に残る菓子と茶の文化

「お菓子屋さんが多い」。棚倉町を訪れた人から良く耳にする言葉のひとつです。城下にお菓子屋さんが多いのは、古くから茶の文化が根付いていたからなのでしょう。

城跡の大げやき前の「阿部正備の茶室」で開かれる茶会や野茶点は、江戸の風情を今に伝えます。幼稚園や学校でも茶道教室が開かれ、子ども達に和の心を伝えていきます。





④



②



①



⑤



③

古きを想い 今を見つめ 新しきを描く



⑥

秋祭りで賑わう10月10日、歴代藩主のご子孫や歴史関係者を招き、「新棚倉藩物語 奥州棚倉藩評定」が開催されました。

冒頭の評定では、棚倉藩主をつとめた立花家、丹羽家、内藤家、小笠原家、阿部家のご子孫、柳川立花家史料館長らが登場しました。これまでに、何度も棚倉に足を運んだ方、初めて棚倉の地を訪れた方と様々でしたが、「棚倉」への想いを語ってくださいました。

「柳川には、今も奥州町という地名が残っている。棚倉との絆は今も残っている(立花氏)」「全国に城は多けれど、棚倉城は水をたたえる美しい城(丹羽氏)」「棚倉の地で、祖先は長生きした。暮らしやすかったのでしょう(内藤氏)」「棚倉城、白河小峰城と丹羽家が造った城の最後の城主となったのが阿部家。今、奥州棚倉藩評定で、丹羽さんの隣に座っていることに不思議なご縁を感じる(阿部氏)」「棚倉には来たのは初めてだが、初めてではないようになつたかしく、ご縁を感じる(中川氏、小笠原家ご子孫)」

「桜」「城」「長寿」「絆」「ご縁」「美しい自然」。様々な棚倉の魅力を語ってくださった藩主のご子孫の方々。評定の結びには次の宣言がなされました。

「先人たちによって伝えられてきた、歴史と文化遺産の保存・継承・再生に積極的に取り組み、文化の向上、郷土愛の醸成、地域の活性化を図り、棚倉町の魅力を発信して行きます。」

棚倉町には、歴代の藩主が復活と栄転を果たした城下町としての品格と凛々しさがあります。その生き方や歴史を、恵まれた自然のなかで体感できる『ゆつたり楽しむ城下町たなぐら』の実現に向けて、『新棚倉藩』の物語が始まることを宣言いたします。」

新しい棚倉町、新棚倉藩の物語は、始まったばかり。先人が築き、守ってきた歴史と伝統、美しい自然、受け継がれてきた人情と街並みを見つめなおし、これからの引き継いでいくことは、小京都棚倉のこれからにつながっていきます。

— 完 —

写真の説明

①②関ヶ原合戦から棚倉藩で復活、栄転を果たした立花宗茂、丹羽長重のご子孫(①立花宗鑑氏、②丹羽長聰氏) ③歴代藩主のご子孫が集まった評定の様子 ④伝統芸能八槻都々古別神社の神楽 ⑤イベントを盛り上げた熊本城おもてなし武将隊 ⑥文化財展も同時開催。写真は八槻都々古別神社の銅造十一面観音菩薩坐像